

## 在宅医療及び在宅緩和ケアの実態に関するアンケート調査

※本アンケートは、本年9月1日時点で介護サービス情報公表システムに登録されている事業所にお送りしています。

## 【回答に際してのお願い】

- ◆ 管理者若しくは代理相当の方からの回答をお願いします。
- ◆ 特に断りのない場合は、本年10月1日現在の状況についてお答えください。
- ◆ 該当する選択肢の番号に○をつける等、各問の案内に沿って記入ください。「その他」を選択した場合は、内容を御記入ください。

## 【本調査における言葉の定義】

在宅緩和ケア	生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、精神心理的問題、社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフ(QOL:生活の質)を改善するアプローチを在宅にて行うこと
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)	今後の治療・療養について、患者・家族と医療・介護従事者があらかじめ繰り返し話し合っておく自発的なプロセス

## 問1. 貴施設の基本情報についてお伺いします。

1-1. 施設名			
1-2. 訪問看護のため患者宅に訪問する常勤換算職員数 【数値記入、小数第1位まで】	看護師 人	リハビリ職 人	その他(医療事務等) 人

## 問2. 訪問看護の状況についてお伺いします。

2-1. 対応している訪問看護の処置についてお答えください(あてはまるもの全てに○)。

1 麻薬管理	9 在宅酸素療法
2 経鼻経管栄養	10 人工肛門ケア・人工膀胱・尿管皮膚瘻
3 胃ろう・腸ろう管理	11 褥瘡処置
4 在宅中心静脈栄養	12 褥瘡以外の創傷管理
5 精密輸液ポンプ管理	13 腹水排液
6 膀胱留置カテーテル(男性のみ)	14 在宅人工呼吸器管理
7 膀胱留置カテーテル(女性のみ)	15 リハビリテーション指導
8 膀胱留置カテーテル(男性・女性両方)	16 その他( )

2-2. 訪問看護の実施状況をお答えください。

注：⑤において「自宅等」は自宅及びサービス付き高齢者向け住宅とする。

本年9月の1か月の実績	① 訪問看護の利用者数(実人数)	人
	② 総訪問回数	回
	③ 新規利用(受け入れ)者数	人
1年間(昨年10月～本年9月)の実績	④ 利用者のうち、亡くなられた方(場所問わず)	人
	⑤ うち、自宅で亡くなられた方 ※	人

2-3. 現在対応している疾患についてお答えください（あてはまるもの全てに○）。

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1 がん疾患      | 5 認知症            |
| 2 脳血管疾患     | 6 精神、神経疾患（認知症除く） |
| 3 循環器・呼吸器疾患 | 7 整形外科疾患         |
| 4 糖尿病       | 8 その他（ ）         |

2-4. 特に在宅での看取りにおいて、訪問看護ステーション側で問題・課題になっていることをお答えください（あてはまるもの全てに○）。

- 1 ACPや在宅看取りなどについて、患者や家族に理解を深めてもらうことが難しい（時間が確保できない等）
- 2 自施設の看護師等、医療従事者のスキル・ノウハウに不安がある
- 3 連携先の医師や看護師等、医療従事者のスキル・ノウハウに不安がある
- 4 連携先のヘルパー等、介護従事者のスキル・ノウハウに不安がある
- 5 自施設の看護師等、医療従事者の人手が不足している
- 6 その他（ ）

2-5. 特に在宅での看取りにおいて、患者・家族等側の問題・課題として実際に起こったことをお答えください（あてはまるもの全てに○）。

- 1 在宅での看取りに関する知識・理解が、患者になかった
- 2 在宅での看取りに関する知識・理解が、同居家族になかった（反対された）
- 3 在宅での看取りに関する知識・理解が、非同居の親類等になかった（反対された）
- 4 独居で親族の支援等がなく、在宅での生活の継続そのものが困難だった
- 5 在宅での看取りに関する知識・理解が、患者の在宅生活を支える看護・介護職員になかった（反対された）
- 6 その他（ ）

2-6. 在宅医療の提供件数を増やすには、何が重要だと思えますか（あてはまるもの3つまでに○）。

- 1 在宅医療を行う診療所との連携
- 2 他の訪問看護ステーションとの連携
- 3 病院との連携
- 4 在宅医療に関わる医師の増加
- 5 在宅医療に関わる医師以外のスタッフの増加
- 6 退院後のスムーズな在宅移行の実現
- 7 （提供側の体制はあるので）患者・家族への周知と需要・ニーズの発掘
- 8 訪問診療や訪問看護に係る現行の診療報酬の引き上げ
- 9 訪問診療や訪問看護に係る現行の診療報酬の引き下げ（患者の負担を軽減するためなど）
- 10 訪問診療や訪問看護に係る診療報酬の算定要件の緩和
- 11 その他（ ）

2-7. 病院での退院時カンファレンス（退院後の受入先医療機関等との情報共有のために行うカンファレンス。以下、同じ）への参加状況についてお答えください（あてはまるもの1つに○）。

- 1 毎回参加する      2 日時が合う時のみ参加する      3 参加したことはない

2・3を選択した方のみ、その理由を教えてください。（自由記述）

その理由	
------	--

2-8. 病院での退院時カンファレンスについて、円滑な在宅医療への移行のために望ましいと考える開始時期をお答えください。（あてはまるもの1つに○）。

- 1 入院前                      2 入院後1週間以内                      3 入院後2週間以内                      4 入院後1か月以内  
5 退院の1週間前                      6 退院の数日前                      7 退院直前                      8 わからない

2-9. 退院患者を在宅医療に円滑に受け入れられたかどうかについてお答えください（あてはまるもの1つに○）。

- 1 大半のケースにお      2 半数のケースにおいて円      3 あまり円滑に受け入れ      4 全く円滑に受け入れ  
いて円滑に受け入      滑に受け入れられた      られなかった      られなかった  
れられた

2-10. 退院患者の在宅医療への円滑な移行を阻む理由についてお答えください（あてはまるもの3つまでに○）。

- 1 患者本人には在宅療養の希望があるが、家族への気兼ね（迷惑をかけたくない等）がある  
2 家族からの反対がある  
3 在宅で介護できる家族・親戚がない  
4 患者本人や家族に主治医（担当医）が代わることに対する不安がある  
5 病院が在宅医療に関する注意事項（日常の処置、投薬、医療機器等）を患者に伝えきれない  
6 病院に退院支援を十分に行う余裕や体制がない  
7 病院に退院支援を行うスキルを持っている医療従事者が不足している  
8 かかりつけ医等、地域の医療・介護スタッフとカンファレンスを十分に実施できていない  
9 病院が在宅医療に積極的ではない（訪問診療等を積極的に行わないなど）  
10 病院スタッフの在宅医療に対する知識・理解が不足している  
11 地域に緩和ケアに必要なスキルを持っている医療従事者が不足している  
12 地域に患者の看取りができる医療従事者が不足している  
13 地域において、在宅医療やケアに必要な医療機器や薬剤等の医療資源が不足している  
14 在宅医療の受け手側（診療所、訪問看護ステーション等）に退院支援を十分に行う余裕や体制がない  
15 患者の急変時の対応が難しい  
16 その他（ )

**問 3. 在宅緩和ケアの状況についてお伺いします。**

3-1. 在宅緩和ケアに対応した認定看護師及び専門看護師の配置状況についてお答えください。

緩和ケア認定看護師	人
がん化学療法看護認定看護師	人
がん性疼痛看護認定看護師	人
訪問看護認定看護師	人
がん看護専門看護師	人

3-2. 担当している在宅緩和ケア患者数をお答えください。(本年9月の1か月間の実績)

がん疾患の患者数(実人数)	人
がん疾患以外の患者数(実人数)	人

3-3. 担当している在宅緩和ケア患者の主な状況について、おおよその割合をお答えください。なお、全て合わせて10割になるようにお答えください。

診断初期	割
治癒を目指した治療期	割
延命や症状緩和のみを目指した時期	割
看取りを含めた、いわゆる終末期	割

3-4. 在宅緩和ケアに関する知識の充足状況についてお答えください(あてはまるもの1つに○)。

- 1 充足している      2 やや充足している      3 やや不足している      4 不足している

3-5. 在宅緩和ケアを推進していくうえで必要だと思うことについてお答えください(あてはまるもの全てに○)。

- 1 患者・家族に対する情報提供や意識啓発
- 2 緩和ケアに関する患者・家族向けの相談窓口設置
- 3 地域で利用できるサービスが一目で分かる冊子やホームページ作成
- 4 病院の緩和ケアチーム等の体制充実
- 5 病院の緩和ケアチーム等のスキルアップ
- 6 病院の緩和ケアチーム等とのカンファレンスの強化
- 7 グループ診療体制等、他の医療機関等との体制面の連携
- 8 緩和ケアを専門とする医師等との勉強会(講義・グループワークなど)
- 9 緩和ケアの知識向上(テキスト配布・e-learningなど)
- 10 緩和ケアに携わる医療従事者等に対するメンタルケア教育の体制充実
- 11 診療報酬の引き上げ
- 12 診療報酬の引き下げ(患者の負担を軽減するためなど)
- 13 その他( )

3-6. 在宅緩和ケア全般に関する課題があれば、御自由にお書きください。

**問4. ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実施状況についてお答えください。**

4-1. ACPを実施していますか(あてはまるもの1つに○)。

- 1 実施している      2 実施していない      3 ACPを知らない

4-2. 4-1で「2 実施していない」と回答した方に伺います。実施していない理由は何ですか。

--

**問5. 他の医療機関や介護事業所等との連携状況についてお伺いします。**

5-1. 医療機関や介護事業所との間で、患者に対する情報をどの程度やりとりしていますか。太枠の中についてそれぞれ◎、○、△、×のいずれかでお答えください。

◎：週に数回    ○：月に数回    △：適宜    ×：なし

医療機関 (病院)	医療機関 (診療所)	薬局	PTやOT等の リハビリ	他の訪問看護 ステーション	居宅介護支援 事業所	地域包括支 援センター	訪問介護 事業所	歯科 医療機関	その他 (施設など)

5-2. 医療機関や介護事業所との協力・連携について、どの程度できていると思いますか。太枠の中についてそれぞれ◎、○、△、×のいずれかでお答えください。

◎：必要な協力・連携ができている  
 ○：ある程度協力・連携しているが、やや課題がある  
 △：あまり協力・連携していないが、今後よりしていきたい  
 ×：あまり協力・連携しておらず、現状その必要も高くない

医療機関 (病院)	医療機関 (診療所)	薬局	PTやOT等の リハビリ	他の訪問看護 ステーション	居宅介護支援 事業所	地域包括支 援センター	訪問介護 事業所	歯科 医療機関	その他 (施設など)

**問6. 在宅医療全般に関する課題についてお伺いします。**

6-1. 在宅医療全般に関する課題があれば、御自由にお書きください。

--

御協力ありがとうございました。  
 この回答用紙を、返信用封筒にて御返送ください。